

単元名 たし算と ひき算の ひっ算(2)

配当時間 10時間

単元の目標 (1) (2位数) + (2位数) ≥ 100 の加法とその逆の減法の筆算の仕方を理解し、その筆算ができる。
 (2) (2位数) + (2位数) ≥ 100 の加法とその逆の減法、簡単な場合の (3位数) \pm (2位数) の筆算の仕方を、既習の2位数の計算を基にして考えることができる。
 (3) 筆算のよさが分かり、進んで活用しようとする。

標準的な展開例

02040201_001

【準備等】計算棒

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (2位数) + (2位数) ≥ 100 で、十の位に繰り上がりがある筆算をする。[p. 102・p. 103] ○ $54 + 38$ の筆算をする。 ○ $54 + 72$ の筆算について考える。</p> <p>○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 答えが100をこえるひっ算のしかたを考えていこう。</p> <p>○ 十の位に繰り上がりがあるたし算を、筆算でする。</p> <p>○ $86 + 23$ の筆算に取り組む。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 (2位数) + (2位数) ≥ 100 で、2回繰り上がりがある筆算をする。[p. 104] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 一のくらしも十のくらしも繰り上がりがあるひっ算のしかたを考えよう。 ○ $65 + 78$ の筆算の仕方を考える。</p> <p>○ $38 + 67$, $98 + 5$ の筆算に取り組む。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 3つの数のたし算を筆算でする。[p. 105] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 3つの数のひっ算のしかたを考えよう。</p> <p>○ $36 + 58 + 97$ の計算を筆算で考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 たし算の練習問題に取り組む。[p. 106] ○ 「れんしゅう」に取り組む。</p> <p>5 (3位数) - (2位数) で、百の位に繰り下がりがある筆算をする。[p. 107] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 十のくらしがひけないひっ算のしかたを考えよう。 ○ $135 - 72$ の計算の仕方を筆算で考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 場面把握をさせ、立式させる。 既習の(2位数) + (2位数) < 100 の筆算との違いを考えさせ、十の位が10を超えることに気付かせる。 計算棒などの具体物や半具体物を使って、筆算による計算を位取り記数法との関係で捉えさせる。 100の束が一つできたことを確認する。 いきなり百の位に1を書かせるのではなく、十の位が繰り上がって1を書くことを意識させる。 【評】既習事項に基づいて筆算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 十の位が空位になる場合に注意させる。 必要に応じて個別指導を行う。 【評】十の位に繰り上がりがある筆算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 既習の筆算の仕方を適用すれば、計算できそうであるという解決の見通しをもたせる。 既習事項を使って筆算の仕方を考えさせる。 ペアで説明し合うとよい。 必要であれば計算棒を操作させて考えさせる。 一の位が繰り上がった結果、十の位も繰り上がり、十の位が空位になったことに気付かせる。 必要に応じて個別指導を行う。 【評】2回繰り上がる筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 生活の中で、3つの数をたす場面を想起させ意欲化を図る。 既習の筆算を基に、3つの数の場合、どのように書けばよいかを予想させる。 2つの数の場合と比較し、共通点、相違点などを考えさせる。 筆算で表す場合、「+」を1回しか書かないことを確認する。 必要に応じて個別指導を行う。 【評】3つの数の筆算に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。 個別指導を重点的に行う。 計算の間違いを見付けて説明する活動により加法の筆算の仕方を確認させる。 【評】加法の筆算の練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 計算棒などを操作しながら、筆算の式と対比させて考えさせる。 いきなり $13 - 7$ を計算させるのではなく、繰り下がりが1回のときと同様に一の位から順に計算することを押さえる。 【評】百の位から繰り下がる筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

<p>6 (3位数)－(2位数)で、2回繰り下がりがある筆算をする。[p. 108]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★一のくらいも十のくらいもくり下がりがあるひっ算のしかたを考えよう。 ○142－83の筆算の仕方を考える。 <p>○175－79の筆算に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 (百何)－(2位数)で、2回繰り下がる筆算をする。[p. 109]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★十のくらいが0でくり下げることができないひっ算のしかたを考えよう。 ○103－67の筆算の仕方を考える。 <p>○100－94の筆算に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 ひき算の練習問題に取り組む。[p. 110]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「れんしゅう」に取り組む。 <p>9 (3位数)±(2位数)の簡単な筆算をする。[p. 111]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★3けたの数のひっ算のしかたを考えよう。 ○(3位数)＋(2位数)の計算の仕方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・234＋57の筆算に取り組む。 ○(3位数)－(2位数)の計算の仕方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・381－53の筆算に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>10 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 112・p. 113]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の問題と違い、十の位だけでなく一の位もひけないことに気付かせる。 ・既習の筆算と同様に、一の位から計算し、繰り下げた後は補助数字を必ず書かせる。 ・誤答防止のため、百の位を斜線で消させてもよい。 ・2回繰り下がる仕組みを十分理解させてから取り組ませる。 ・個別指導により、必要であれば数え棒を操作して考えさせる。 【評】2回繰り下がる筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・一の位を計算するとき、十の位から繰り下げられないことに気付かせる。 ・十の位から繰り下げられないときに、百の位から繰り下げることをつかませる。 ・計算の仕方が理解できない児童には、10から1をひいた数が何かを考えさせると分かりやすい。 ・答えが、百の位も十の位も空位になることに気付かせる。 ・上の位が空位の場合、0は書かないことを確認する。 ・必要に応じて個別指導を行う。 【評】百の位から繰り下げる筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・個別指導を重点的に行う。 ・計算の間違いを見付けて説明する活動により減法の筆算の仕方を確認させる。 【評】減法の筆算の問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・既習の筆算の仕方を基に考えさせる。 ・(2位数)＋(2位数)の筆算の仕方を想起させるようにする。 ・位をそろえてかき、一の位から計算すればよいことを確認する。 ・(2位数)－(2位数)の筆算の仕方を想起させるようにする。 ・斜線や補助数字を必ず書かせる。 ・必要に応じて個別指導を行う。 【評】3位数の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・たし算とひき算の筆算について分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	---

【 備 考 】
本単元は、既習の筆算の仕組みを用いて、(2位数)＋(2位数)≥100の加法とその逆の減法の筆算を学習する。形式的に扱うのではなく、具体的操作を通して児童自身に見出させるようにし、筆算の仕方を理解させることが大切である。さらに、簡単な3位数の加法、減法も指導することで、2位数までの計算を確実なものにする。